

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		じらふ住吉		公表日		2026年 3月 5日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	10	0	プレイルーム・静養室・廊下の3スペースを利用者の特性やその日ごと様子に応じて過ごす場所の環境調整を行っている。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	10	0	基本人員を満たしており、加配体制も取っている。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	10	0	動空間は利用者の特性に応じてイラスト・文字・写真・実物・スケジュール等視覚的なツールを用いて相互にコミュニケーションを図るなど環境上の調整をしている。パーテーションを活用、空間を分けて静かな空間、活動的な空間をわけている。	ワークシステムを取り入れ、場面ごとの活動の流れや終わりを提示していく。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	9	1	活動エリア・トイレ等はデイ活動終了後、毎日清掃を行っている。季節の変わり目などシーズンごとに活動フロアのエアコンフィルター清掃等も実施している。机の角等怪我のリスクのある場所や破損個所などは適宜修繕を行っている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	10	0	カームダウンスペース等にも活用できる個室・半個室空間がある。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	10	0	定期的な職員会議の開催。職員・スタッフの打ち合わせ・振り返りの機会を毎回設けており、利用者の最近の様子・環境上の配慮等職員・パートアルバイトスタッフと情報共有を図っている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10	0	毎年保護者アンケートを実施。ご意見をデータにまとめて職員会議にて共有し、それをもとに実施可能な改善案の検討、優先事項を決めて業務改善につなげている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10	0	今年度は隔週で職員会議にグループワークを実施。各テーマに応じて様々な職員が意見交換しやすい機会を設け、業務改善につなげている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	10	0	第三者による外部評価は対応協議中。支援実践に関しては適宜外部の支援専門機関によるコンサルテーションを受け、支援の質の向上を図っている。	第三者による外部評価に関しては法人全体で要検討。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	10	0	職員は法人内研修・外部研修への参加、すみすみ研修の開催など学びの機会を設け、実践現場へ反映するよう努めている。また受講した研修内容をパートアルバイトスタッフへ伝達する勉強会の機会を月に2度開催。月ごとにテーマを変えて実施している。		
適切なま	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	10	0	事業所の特色を活かした支援プログラム職員間で検討し作成。HP・公式LINEからアクセスできるGoogleドライブ等で公表している。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を作成しているか。	10	0	個々の子どもの思い・気持ちを日々の関わりや様子の観察からアセスメントを行い、個別支援計画作成時は現場職員の見立てや仮説等も反映させて、計画を作成～実践～実践結果の評価～支援の見直しのサイクルのもと、アプローチしている。		
	13	個別支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	10	0	日々の打ち合わせ、振り返りの機会を通じて個別支援計画の目標や実施状況を職員パートアルバイトスタッフ間で共有する場を設けている。	個別支援計画の内容を口頭での共有になる部分もあったため、スタッフ間でも書面を用いるなど視覚的に共有できるシステムを作り、計画に沿った支援をより意識づけてできるよう環境設定していく。	
	14	個別支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	10	0	日々の打ち合わせ、振り返りの機会を通じて個別支援計画の目標や実施状況を職員パートアルバイトスタッフ間で共有する場を設けている。	個別支援計画の内容を口頭での共有になる部分もあったため、スタッフ間でも書面を用いるなど視覚的に共有できるシステムを作り、計画に沿った支援をより意識づけてできるよう環境設定していく。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	10	0	事業所内にて標準化されたツールを用いたアセスメントは未実施だが、日々の関わりや行動観察、ご家族様からの聞き取り等からアセスメントを実施している。またABCDE分析シートや氷山モデルシートなど民間の支援機関が作成したアセスメントシートなども活用している。		
	16	個別支援計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	10	0	ガイドラインにおける本人支援・家族支援等は5領域の観点から利用者それぞれの思いや気持ち、生活に対する意向に添うよう、本人さんやご家族さまの思いを聞き取りながら作成している。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	10	0	常勤職員で活動プログラムを検討することは多いが、パートアルバイトスタッフへもプログラムを実施してみ子どもたちの様子はどうか、改善点はないかなど聞き取りの機会を設け、次のプログラムの検討～立案を行っている。		

へ 援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	10	0	平日・休日・長期休暇とプログラムの年間計画を検討し、プログラムが重ならないように工夫している。またSNS等から活動プログラムのアイデアを情報収集し、年度ごとに新しい活動を取り入れ、プログラムのマンネリ化防止も意識して実施している。	利用者個々のニーズや集団としてのニーズなど様々があるが、ご家族様からは外出企画の機会を増やしてほしいというお声もあるため、今後の実施に向けて検討していく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる個別支援計画を作成し、支援が行われているか。	10	0	利用者さんの状態や利用者さん同士の相性も考慮しながら、個別活動・集団活動の検討、それぞれ適ごされるエリアの検討をして実施している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	10	0	平日は支援開始前に20分～30分間職員・パートアルバイトスタッフ間で支援内容や役割分担について確認共有している。	・時短勤務等で打ち合わせに参加できない途中出勤のパートアルバイトスタッフには適宜情報は行っているが、口頭のみのやりとりになることが多く、共有しきれていない部分もあるため、情報共有しやすいシステムを検討していきたい。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	10	0	支援終了後の振り返りは毎回15分ほどかけて振り返りを実施。課題や、次回の改善点などを共有し、パートアルバイトスタッフの意見も聞き取り、記録に残し、次のアプローチにつなげている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	10	0	支援終了後ケース記録へ支援目標に対する達成状況、その日の様子の記入を行っている。その記録をもとに、次期個別支援計画の内容について再検討するツールとしても活用している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	10	0	・個別支援計画は6ヶ月ごとに見直し、作成後にご家族と面談や電話にて懇談を実施。事業所での様子や自宅や学校での様子、支援内容について共有する機会を設けている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせる支援を行っているか。	10	0	事業所が安心して過ごすことのできる居場所であると感じてもらうために、まずは「遊ぶ」「楽しむ」ことをキーワードに活動を組み合わせて支援しています。また地域での昼食買い物企画や公園遊び等も設定し、地域との交流の機会へもアプローチしています。	
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	10	0	活動や企画の参加は義務ではなく、利用者さんがイメージしやすいよう視覚的に実物や手順書を提示し、「やる」「やらない」と選択できるような働きかけをしている。		
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	10	0	ケース担当者が会議に参加し、ご家族や他機関とも支援の方向性や最近の様子など情報共有を図っている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	10	0	サービス担当者会議や月1定例の住吉区住之江区の他機関との情報共有の場(自立支援協議会・すみずみ連絡会・すみずみ研修)に参加し、機関同士がつながり顔の見える横の関係を形成～構築するなど、連携しながら地域で支援体制を整えている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	10	0	学校の行事予定等書類は保護者から提供していただき、その日の様子は送迎引きつぎ時に、緊急であれば一部メールや電話にて共有を行なっている。送迎の変更の際の連絡や、緊急時にも適切に連絡・調整を行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	10	0	事業所の対象利用児が小学校高学年～中学生ということもあり、就学前に利用していた機関との直接やり取りは少ないが、必要であれば適宜情報共有できる体制は整えている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	10	0	障害福祉サービス事業所等と、実習時より情報提供を行ったり、2～3月で会議を設けて参加したり、進路先事業所へ訪問して情報提供している。進路先への引継ぎやデイサービスの利用があるうちに見学に来ていただいている。また移行する児童の情報を共有し、受入可能かなども検討を行っている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	10	0	地域の児童発達支援センターとの連携の直接やり取りはないが、必要であれば適宜情報共有できる体制は整えている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	8	2	おうちサンタ企画などで地域に出ていく機会を設けている。公園遊びでは地域の子どもたちと同じ空間で遊ぶ場面などもみられている。	アンソバ(利用者や地域の子がともに遊ぶ企画)やアンテナの企画を行っていたが、コロナ禍以降で休止となり、現在も休止中。
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	10	0	事業所の代表職員は毎月の子ども部会(住之江区)の参加や、区で行われる協議会にも参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	10	0	帰り送迎の引きつぎ時や、連絡帳、メール、LINE、電話にて最近の様子・抱えている課題や悩み事などの共有を適宜おこなっている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	10	0	ママレモンズ(母の会)・おやじの会(父の会)やすみずみ研修にて、支援について職員とご家族さまがともに学び合う場を設けている。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	10	0	契約時や改定時などに読み合わせを行いながら説明を行なっている。公式LINEでは運営規定や支援プログラムがいつでも閲覧できるようにしている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	10	0	日々の関わりから利用者さんの意思形成～意思決定について自ら選択や判断がしやすいよう肯定的・具体的・視覚的な関わりをもって環境調整を図っている。懇談時にはご家族様の意向等を聞き取りながら、個別支援計画書に反映して作成している。	

保護者への説明等	38	「個別支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から個別支援計画の同意を得ているか。	10	0	半年に一度の個別支援計画書の見直し時に、ご家族様へ個別支援計画書の実物に目を通していただきながら、説明を行い同意を得ている。ご家族様からのご意見・ご意向で修正点がある場合は、その都度支援について擦り合わせを行い修正している。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	10	0	帰り送迎引きつぎ時や、連絡帳、メール、LINE、電話にて抱えている課題や悩み事などの相談に応じている。職員一人の判断にならないよう、適宜職員間で話し合い検討し、客観性をもって助言を行っている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	10	0	お母さん向けの交流会（ママレモンズ）や年に2回程度お父さん向けの交流会（おやじの会）を開催している。	お父さんの交流会では参加率が低いため、ご家族様にとってメリットが大きく参加しやすい内容を実施していきたい。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	10	0	苦情については、承った職員が対応にあたり、上司へ報告している。苦情受付対応記録に記載し、回覧・共有を行い、改善に向け努めている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	10	0	月に一度、じらふだよりを発行している。また、SNSでも活動写真をあげ、発信している。公式LINEも活用し連絡体制を整えている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	10	0	従業員には個人情報の取扱いに関する契約書を書きもらい提出している。また利用者向けには個人情報同意書を確認してもらい、提出してもらっている。それをもとに、SNSや広報誌の写真等を選定するなど留意している。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	10	0	必要に応じてひらがなやルビを振ったり、イラスト・写真・カード・書面等の視覚的な情報を活用し、伝達を行っている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	10	0	サンタ企画など地域と関わりをもてる機会を作っている。地域に向けた当法人内のバザーなどへ利用者の子供たちと出向いて、参加するなど行っている。	事業所の開催の行事等は頻度は少ないため、今後検討して行きたい。防災食体験や起震車体験など法人全体と地域と連携しながらの実施も検討し働きかけたいと考えている。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	10	0	マニュアルを策定し、職員へ配布したり、月1の勉強会・防災訓練等で周知するとともに訓練の実施をしている。ご家族様向け・パートスタッフ向けには紙媒体のお知らせ配布や公式LINEのリッチメニューからGoogleドライブにある各種マニュアルを閲覧できるように設定している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	10	0	・BCPの策定をするとともに、非常災害の発生に備え、地震、火災どちらも想定した防災訓練等を毎月実施。年に2回館全体の訓練にも利用者ごと参加している。 ・非常災害の発生に備え職員は毎月1回（15日）LINEノートを活用し連絡体制の確認を行っている。 ・防災週間にて職員スタッフ向け・ご家族向けに災害伝言ダイヤルで訓練を実施している。	月1度の避難訓練の為、すべての利用者・スタッフが事業所から広域避難所までの経路を歩いて確認する機会を設けることができていない。避難訓練のみならず、散歩や公園遊びを通じて、より多くのスタッフ・利用者が広域避難所までの経路を知ることが出来る機会を設けていきたい。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	10	0	事前に服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況をご家族様にも確認し、事業所内で起こった際の対応方法について職員パートアルバイトスタッフ間で共有している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	10	0	保護者からの聞き取りや契約時にアレルギー確認を行い、対応を行なっている。	どのような種類のアレルギーで、反応が起こった際どのような状態になるのか、また対応方法についてを書面化し、職員スタッフ間で情報共有できる環境作りが今後の課題である。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	10	0	安全計画を作成し、必要な研修や訓練を年間の防災訓練ともリンクさせながら実施している。 子ども（利用者）への指導では、口頭のみでなく、本人さんたちが分かりやすくイメージしやすいように、文字やイラスト等を用いて説明するよう努めている。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	10	0	ご家族様向けには紙媒体のお知らせ配布や公式LINEのリッチメニューからGoogleドライブにある安全計画を閲覧できるように設定している。	安全計画に基づく取り組みを実施した際は、個人情報にも配慮しながら、取り組みの様子をHPやSNS等で発信～周知していく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	10	0	年度別にヒヤリハット、事故報告書をファイルでまとめ、スタッフ向けのお知らせや会議にて共有している。職員パートアルバイトスタッフ向けには、リスクマネジメントに関する勉強会を開催し、共有する機会を設けている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	10	0	年に一度、虐待予防、権利擁護についての研修を職員全員参加で実施するとともに、パートアルバイトスタッフ全員にも虐待防止、権利擁護についての勉強会の開催を行っている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、個別支援計画に記載しているか。	9	1	虐待予防の勉強会の際に、まずは予防的なアプローチについて共有するとともに、やむを得ず身体拘束を行う場合の3原則について周知している。また個別支援計画に記載し、計画作成会議にて承認を得た上で、本人と周囲の安全確保のために実施していることを本人さんへ伝えることやご家族様へ懇談時に説明と同意を得ている。		

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 じらふ住吉

公表日 2026年 3月 5日

利用児童数 23

回収数 17

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	11	2	0	4	・中を見ていないのでわからない	
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	12	1	0	4		
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	15	0	0	2		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	12	3	0	2		
適切な 支援の 提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	17	0	0	0		
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	15	0	0	2		
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、個別支援計画が作成されていると思いますか。	15	0	0	2		
	8 個別支援計画には、ガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	15	0	0	2		
	9 個別支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	15	0	0	2		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	12	2	0	3	・ルーチンを崩していくのではなく、本人が安心して取り組めるようにした上で、固定されないようにして欲しい。 ・プログラムを工夫して下さっているのに、じらふを利用してからはじめての事が苦手な息子が色々なことに参加できるようになったと感じています。	まずは活動に参加するかどうかの選択の機会を設けて関わることを大切にしています。その上で少しでも活動の見通しが立てられるよう視覚的なツールを用いて活動プログラムへの参加の働きかけ、環境設定の工夫を実施していきます。
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	1	5	1	10	・特になくても良い	児童クラブや児童館との交流については、引き続き検討しています。また、地域の公園遊びを通じて、地域のこどもとの交流の機会になればと考えています。
保護者へ	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	16	1	0	0		
	13 「個別支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	17	0	0	0		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	14	0	0	3	・なかなか参加できませんが興味はあります。 ・業所さん全体が学ぶ意識を高く持っておられると感じます。常に情報も提供いただいています。	ママレモンズ(母の会)・おやじの会(父の会)やすみすみ研修にて、支援について職員とご家族さまがともに学び合う場を設けています。今後もご家族様が参加しやすいよう公式LINE・SNS等で広報していくことや、研修動画のオンライン配信等実施していきます。
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていますか。	15	0	0	2		
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	13	2	0	2		
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	12	0	0	5	・連絡帳に書いたことにも共感いただいで、安心して預けられています。 ・苗字を呼び捨てて呼ばれる職員さんがいて、名前なら親近感があるのですが、うちにだけみたくて気になります。	職員・パートアルバイトスタッフ向けの『接遇』勉強会にてご利用者様のお名前を呼び方を含めまして全体で確認することや、適宜個別のスタッフへも指導していきます。

の 説 明 等	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	13	0	1	3	・家族への支援や保護者同士の交流はしっかり設けてもらって嬉しいです。きょうだい児のイベントも開催してもらえると嬉しいです。下の子がきょうだい児で、少しずつ興味を持ち始めたので、じらふ、ライサゴの中であると嬉しいと言っていました。	ママレモンズ（母の会）・おやじの会（父の会）のご参加ありがとうございます。ご兄弟様もご参加いただけるようなイベントの開催も職員間で意見やアイデアを出しながら今後検討していきたいと思えます。
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	14	0	0	3		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	14	2	0	1		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	17	0	0	0	・紙ベースでも定期的にデイの活動やスタッフの紹介など情報開示の手段が設けられている。	毎月の事業所からのお便りにも目を通していただきありがとうございます。今後も紙ベースやSNSでも活動写真を掲載させていただきます。また公式LINEも活用し、情報発信・連絡体制を整えていきます。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	15	1	0	1		
非 常 時 等 の 対 応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	13	0	0	4		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	12	0	0	5		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	10	1	0	6		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	11	0	0	6	・事故等が今まで無かったのでわかりません。	事業所のご利用中に起こったケガや事故につきましては、帰り送迎引きつき時や、連絡帳、LINE、電話等で、当時の状況や対応、その後の様子などご説明させていただきます。
満 足 度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	15	0	0	2		
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	16	0	0	1	・通常は月に2回と利用回数は少ないですが、とても楽しみにしているように感じます。	じらふへの通所を楽しみにご参加いただきありがとうございます。これからも子どもたちの気持ちや思いを尊重し「遊び」から発達を育み、安心して楽しく過ごすことができる場所の提供に努めます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	16	0	0	1	・とても満足しています。何かあればすぐに教えてくれて、適切な支援してくれます。保護者の相談にもすぐに対応してくれるので、私たち家族にとってなくてはならない存在です。	こちらこそ、いつもありがとうございます。今後ともよろしく願いいたします。

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	じらふ住吉		
○保護者評価実施期間	2026年1月6日		~ 2026年2月24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23	(回答者数) 17
○従業者評価実施期間	2026年2月1日		~ 2026年2月24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 25日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<p>・<b>本人主体の活動選択と「遊び」中心の支援</b>： PECS（絵カード交換式コミュニケーションシステム）等の視覚的ツールを活用し、子どもが自ら遊びを選択できる環境を整えています</p>	<p>・<b>PECSの活用と意思表示の支援</b>：発語が少ない、あるいは自分の意思を言葉で伝えるのが難しい子どもに対し、PECS（絵カード交換式コミュニケーションシステム）を導入して自発的に要求を伝えられるよう工夫しています。</p> <p>・<b>遊びの選択機会の提供</b>：視覚的ツールを使い、子どもが自分で「何をしたいか」を選べる環境を整えています。また、一人ひとりの興味関心に応じた遊具や玩具を意図的に提供しています</p>	<p>・<b>知育玩具の充実</b>：子どもたちの興味を引き、「面白く学べる」ような新しい知育おもちゃの導入を検討しています。</p> <p>・<b>「一緒に遊ぶ」技術の向上</b>：重度の障害がある子に対し、スタッフが単に見守るだけでなく「いかに一緒に楽しく遊ぶか」という関わりの質を、振り返りや打ち合わせを通じて高めています。</p> <p>・<b>教材作成の工夫</b>：スタッフが教材を作る際、既存のものを活用するなどして効率化を図りつつ、遊びの選択肢を広げることが議論されています。</p>
2	<p>・<b>根拠に基づく実践</b> アドラー心理学を用いた「勇気づけ」や、研修で学んだ専門的な知見を日々の支援に反映させています。</p>	<p>・<b>専門知見の現場反映</b>：アドラー心理学の「勇気づけ」や研修で学んだ手法を実際の支援に取り入れています。結果だけでなく、子どもの過程（頑張り）に着目するアプローチを意識しています。</p> <p>・<b>定例勉強会の実施</b>：毎月、職員やパートスタッフを対象とした勉強会を開催し、支援の質の維持に努めています。</p>	<p>・<b>信頼関係を軸にした専門性</b>：単に「やり方」だけを学ぶのではなく、「子どもとの信頼関係を作るためにその技術をどう使うか」という視点で、ミニ勉強会やロールプレイを強化しようとしています。</p> <p>・<b>「この人と遊びたい」と思われる工夫</b>：子どもが「この人のために頑張りたい」「この人といるとおもしろい」と思えるような、スタッフ自身の遊びのスキルを高めるための共通認識を持つようとしています。</p>
3	<p>・<b>「居心地の良さ」の提供</b> 子どもたちが「居場所感」を感じ、リラックスして過ごせる雰囲気作りがなされています。</p>	<p>・<b>安心できる環境作り</b>：子どもたちが「自分だけの場所にされている感（疎外感）」を感じず、みんなと同じようにリラックスして過ごせる雰囲気（居場所感）を大切にしています。</p>	<p>・<b>スタッフ間の「勇気づけ」の導入</b>：スタッフ同士が互いに褒め合い、勇気づけ合うことで良い雰囲気を作り、それが子どもたちへ還元されるような仕組み（週に一度のポジティブな振り返りなど）の導入を検討しています。</p> <p>・<b>支援方針の統一</b>：「こういう支援を大事にしたい」というメッセージをスタッフ間で共有し、チーム全体で子どもたちの居心地の良さを支える体制を整えようとしています。</p>
4	<p>・<b>強固な家族支援</b> 公式LINEや電話での細やかな情報共有、保護者会や勉強会の開催を通じて、家族との信頼関係を築いています。</p>	<p>・<b>デジタルツールの活用</b>：公式LINEを通じて日々の連絡や情報共有を行うだけでなく、支援のヒントや研修動画を共有し、保護者が視覚的に支援内容を理解できるよう工夫しています。</p> <p>・<b>交流と学びの場の提供</b>：「すみすみ研修」や保護者会を定期的に開催し、保護者同士やスタッフとの交流、共に学ぶ機会を設けています</p>	<p>・<b>研修情報の更なる可視化</b>：LINE公式アカウントの活用をさらに進め、研修内容を保護者が後からでも確認できるように配信の仕組みを強化していく予定です</p>

1	<p>事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること</p>	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
---	--	-------------------	----------------------

<p>・<b>身体活動・外出プログラムの不足</b>        集団での運動プログラムや、地域への外出企画が質・量ともに十分ではありません。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>利用者の重症化と個別対応の必要性</b>： 中度から重度の障害を持つ子が多く、安全確保のためにマンツーマンでの対応が必要なケースが増えています。</li> <li>・ <b>体制確保の難しさ</b>： 特定の子に特定のスタッフしか付けられないという「躊躇」があり、外出時のスタッフ配置（体制）を組むのが難しい現状があります。</li> <li>・ <b>目的設定の弱さ</b>： 外出しても「ただ見るだけ」になりがちで、子どもたちにとって分かりやすい「目的（買い物など）」を十分に設定できていないことが、誘いにくさにつながっています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>日常的な運動習慣の導入</b>： 土曜日などに短いバージョンのラジオ体操を導入したり、終わりの会のリトミックで体を動かす時間を定着させたりします。</li> <li>・ <b>目的を持った外出の実施</b>： 昔行っていたような「ペアでの買い物」を復活させるなど、簡単な目的を設定して地域に出る機会を増やします。</li> <li>・ <b>近隣資源の活用</b>： 長居公園や万代池公園など、近場の外出を繰り返し経験し、外に慣れる機会を作ります。</li> </ul>
<p>2</p> <p>・ <b>「遊び」の技術的課題</b>        重度の障害がある子どもに対し、大人がただ「見守る」だけになってしまい、いかに一緒に楽しく遊ぶかという関わりに課題があります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>遊び方の認識の乖離</b>： 子どもが好む遊びが大人の想定と異なっている場合、大人がどう介入していいかわからず「見ていられるだけ」になってしまいます。</li> <li>・ <b>「信頼関係」より「技術」の先行</b>： 支援の専門性（やり方）が先行してしまい、その根底にある「この人と遊びたい」と思われるような信頼関係の構築が後回しになっていた可能性があります。</li> <li>・ <b>特性による関わりの難しさ</b>： 人に興味を持ちにくい特性（自閉スペクトラム症など）を持つ子に対し、遊びの対象として認識してもらうことの難しさがあります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>スタッフ自身の遊びのスキルを高めていく</b>： 技術を詰め込む前に、子どもから「この人と遊びたい」と思ってもらえるよう、スタッフ自身が魅力的な存在になることを目指します。</li> <li>・ <b>「楽しさの共有」を重視した振り返り</b>： 振り返りの時間を「出来事の報告」だけでなく、「どう一緒に遊ぶか」「楽しさをどう共有するか」を話し合う場として活用します。</li> <li>・ <b>スタッフ間の勇気づけ</b>： 週に1回、スタッフ同士が褒め合い、勇気づけ合う時間を設けることで事業所の雰囲気をよくし、それを子どもたちへの良い関わりに還元します。</li> </ul>